

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	開所前よりの、理念が合致している。又、利用者さんにも分かりやすい言葉で、利用者さんに書いて頂き提示している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎朝、申し送りでも理念を復唱し、理念に基づく日々の方針を具体的に伝えている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	運営推進会議や、地域ケア会議、家族さんとの交流会、地域に向けての愛和だよりなどで、認知症への理解、普通の暮らしを地域でさせていただいての感謝の言葉などを交え、伝えている。	
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	開所4年目になり、ご近所や、近くのお店の方などいつものご利用者さんの顔を覚えてくださり、通ると声がけや、挨拶など出来ている。近所の子供さんも遊びに来られたことがある。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会の地藏盆や夏祭り、障害者のお祭りなどに参加させていただいている。ホームの為に特別に席を設けて下さるなど、一方的にお世話になっている感がある。一部の利用者さんは、地域の方と話しが弾んでいる様子だった。	

グループホーム愛和(Aユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症講座を近くにあるグループホームさんと共同で、昨年2回開催させていただいた。又、地域ケア会議でも、認知症について話したことがある。 「ものわずれ困りごと相談お受けします。」のポスターを表に出し、相談を随時受け付けている。	○	認知症講座は、今後も機会があれば取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員ですることにより、今まで気付かなかった事や、介護者としての姿勢など、振り返ることが出来た。全員での振り返りが効果があるので、時間を設定し、行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、主にサービスの状況、取り組み、地域との連携方法などを話している。	○	自己評価、外部評価についても報告し、話し合っていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議や情報提供会に出席し、情報を得ている。又、分からないことがあれば、電話や市役所に訪問し相談している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について研修済みであるが、ホームの利用者さんには介護者がおられ、今のところ該当者が無い。職員には、制度の概要と必要性は話したことがあるが、詳しく研修はしていない。	○	今後職員の勉強の機会を設けたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の外部研修に参加。昨年1月に講師の先生にホームを視ていただいた。又、外部研修を受けた職員に講師になってもらい、内部研修を実施した。	○	職員の入れ替わりもあり、機会を設け研修を実施していく。

グループホーム愛和(Aユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類を一緒に読みながら、口頭で説明を行い、質問が無いかを確認しながら、理解、納得頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会は設けていないが、いつでも気軽に話せる雰囲気作りに努めている。自分の意思をうまく表出できる方が少ない。意見は可能な限り受け入れている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	愛和通信、預かり金の金銭出納帳のコピーと領収書を毎月自宅に送付。職員の移動も愛和通信や家族さんとの会合などで報告している。家族さんの訪問が定期的でありその都度、利用者さんの状態を報告している。	○	生活報告を個人ごとに報告できるようにして行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を、気軽に伝えて頂けるよう、働きかけている。玄関にも意見箱を置いている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昨年より年に1回職員の面接を実施。意見や希望目標などを聞いている。 又、2ヶ月に1回ぐらいミーティングを実施し自由に意見を言ってもらっている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	受診や、状態の悪化時は、職員の勤務延長などで対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員の異動は1人ずつとし、少しずつ慣れていただいている。異動は最小限に留めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	牽引していく管理者・リーダーは県やGH協会の研修などで、又、新人研修なども段階に応じて参加している。2ヶ月に1回位内部研修を外部から講師を御願いしたり、管理者や、栄養士資格者が行っている。現場では、その都度OJTを行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近所のGH3カ所と内部研修の行き来をしたり、行事やお菓子づくりなど招待し合っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	歓送迎会や忘年会などを行ってきたが、今後職員の慰労会を3ヶ月に1回実施予定。先日第1回を実施した。疲れている職員は個々に話を聞き改善に努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の個性を尊重し、まず良い所を認め、お互い補い合いながら利用者さんの援助にあたっている。職員は嚙下困難者の食事の工夫など自発的に行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人からの相談は今まで無かった。ご本人にもホームに見学に来て頂き、思いや困っていることを聞いたり、面接に伺っている。納得の上での入所を御願している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の思いや困っていることなどお聞きし、受診への助言や介護の労を受け止めている。入所の決心が固まられるまで待つようにしている。		

グループホーム愛和(Aユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	話の中から、まず出来ること、出来ないこと、好きなこと、嫌 いなことなど区分しながら、必要なサービスを見極めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	可能な限り入所前に見学に来て頂き、他の利用者さんとも話 をしたり、お茶を飲んだりし、納得して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	得意な裁縫や掃除など利用者さんから教えてもらったり、梅 干づくり、味噌づくりなどおしえて頂くなど、感謝の気持ちを 伝えながら、暮らしている。外食や散歩でのきれいな花を眺 め、一緒に喜び合う時の笑顔は良い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	家族さんの面会は多い。状況を説明しながら、どうすれば最 善の援助が出来るか、話し合っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	認知症のセンター方式の記録や聞き取りにて、家族さんの思い を理解し、行事や、面会時の一緒にお茶の時間を設けるな ど、共に過ごせる機会を作っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	友人や、親戚の方の面会もご家族に確認しながら、受け入 れている。近隣の利用者さんにおいしかったたこ焼きのお店 を教えて頂き同行した事もある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	コミュニケーションのとり方が苦手な利用者さんには、職員が 中に入り援助している。 仲の良い人同士一緒に居られるよう、席を誘導したりもして いる。		

グループホーム愛和(Aユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族には、親元に来ているつもりで、気楽に過ごして頂けるよう、気持ちよく迎えている。 24時間何時でも面会を受け入れている。宿泊もOK。泊まれた家族さんもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動の都度意思確認をしている。お茶、午睡など自分の意思をうまく伝えられない人は、顔を見ながら、表情で読み取っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、担当のケアマネさんや、家族さん、ご本人から情報を頂き、全体像を把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族さんや、デイでの様子、ケアマネさんの情報など多方面から教えて頂き、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	チームでのカンファレンスや主治医、訪問看護師さんなど、意見を聞き家族さんに伝え相談しながら、介護計画を作っている。問題が起こった時は、ミニミーティングを開き検討している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的カンファレンスを開き本人の状態をチームで確認し、検討している。又、介護方法の変更時には家族さんにも了解を頂いている。		

グループホーム愛和(Aユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常、非日常を見分け、変わった事は特記事項に記入すると共に、申し送りやノートでも報告し、情報を共有している。又、状態の変化があった場合は記録の様式を変化させ、記入しやすいよう変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームであり、多機能サービスは実施していない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんや地域の方は運営推進会議だけではなく、習字、手品、踊り、歌、工作、お花など沢山の方がボランティアで応援してくださっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行き慣れた地域のデイに行きたいと希望された方は、グループホーム利用者であり、介護保険を使えない為、自費でデイサービスに参加されたことがあった。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での話し合い助言は頂いているが、ケアマネジメントでは相談していない。権利擁護に該当される方も今のところおられない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅での主治医を継続希望の利用者さんは継続して頂いている。往診の方、受診でホローの方いろいろあったが、体調が悪くなり、受診が困難になった時点で、家族さんと相談し、往診医に変更して頂いている。		

グループホーム愛和(Aユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する専門の病院2箇所に、相談できるDrがおられる。必要な方は、定期的に受診をし、診て頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護師さんが週に1回訪問し、状態を診てくださっている。看護面からの介護の注意点など助言を頂いている。緊急時は依頼し診て頂いている。ホーム、看護師さん、主治医の連携ルートが出来ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には病院に情報を伝え、相談している。環境の変化で認知症が進行しないよう、可能な方は早期に退院された方もあった。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時、家族さんに予めターミナルについての意思確認をおこなっている。重度化された場合は、家族さんや主治医と相談しながら方針を決め、職員にはミニカンファレンスや申し送りノートで情報を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームでみとりの経験はないが、重度化された時の主治医、訪問看護師、ホームの連携体制は出来ている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	Aユニットには入院によりやむを得ず退所になられた方はおられるが、他はない。今後そのようなケースがあった場合努力したい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	耳の遠い方や認知レベルに合わせ、声掛けを行っている。その方が分かる声掛けを行っている。(しょんべん等)。慣れから、声大きい時もある。排泄時はドアを閉め、タオルで覆っている。	○ ・洗濯物の片付けに了解を得ず訪室しているときがあるので、確認を行っていく。 ・排泄誘導の声掛けのトーンを落としていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・認知症のレベルにもよるが、お茶メニューの希望や衣服の確認を行っている。 ・失語症により言葉の表出が出来ない方は、どちらかを選択できるよう話しかけ、うなずきで、意思を確認している。	○ 利用者さんの重度化により、全介助者が多く、就寝、起床の時間を職員に合わせてもらっている時があるので、出来るだけ納得して頂けるよう努力する。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・言葉だけでなく、身振り表情を見てご本人の希望を考慮ようにしている。 ・その方のペースが自己表現できない方が多く、職員が判断し行う時がある。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・基本的には自宅から持ってきた服を自分で選び着ている。買い物ツアーで服を買われる時もある。本人の希望の店が無く、職員の散髪に満足されている。近くの美容室を促してみるが、「行きたい」と言われた事が無い。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢、筋力低下による車椅子の方が多く、いつもではないが、テーブルにて野菜の皮むき、ホットプレートでの調理などできることを手伝っていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・飲み物は、ご本人の嗜好に合わせ提供前に聞いている。 ・お酒・タバコを吸う方がおられない。	

グループホーム愛和(Aユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・トイレと訴えがあれば、パット使用でもすぐ対応している。昼間は出来るだけ身軽に居られるよう、紙パンツを止めパンツとパットで対応している方が多い。排泄チェック表で排尿パターンをつかみ援助している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・3日に1回は入っていただけるよう声掛けを行っているが、ご本人の意向は聞いている。 ・お風呂に対しこだわりが無く(忘れておられる?)。入る、入らないだけ聞いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・二日寝て二日起きておられるようなペースの方もおられるが、その方のリズムに合わせて対応している。 ・日中の体調を見ながら、臥床していただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・犬の散歩(利用者さんの飼い犬)、買い物など近くにスーパーがあり行きたいと思われる時に援助している。 ・掃除や花の世話をご本人の思いで動いてもらったり、力に応じて頼んでいる。 ・味見も頼んでいる。	○	・些細なことでも、出来ることは依頼していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・管理のできる方、希望のある方は、お金通帳を持って頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・犬の散歩、買い物に行っておられる方がある。 ・希望を言われる方があまり無い。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・月に1回は行事として外出の機会を設けている。他、希望にあわせ外出して頂いている。 ・家族さんと共に旅行や外食などを楽しまれる方もある。		

グループホーム愛和(Aユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・年賀状の支援。 ・希望があれば、電話をかけれるよう援助している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・家族さんには、ここが親元という思いで迎えている。家族さん、友人など面会がよくある。茶をお出しし、自室や好きな場所ですつろいで頂いている。利用者さんと入居した室内犬がすべての家族さんを覚え歓待している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・リスクがある時に、「待ってください」「出来ません」と言う言葉を使ったことがある。 ・身体拘束についての職員研修をしている、新人職員にはOJTを行っているが、再度徹底したい。	○	・身体拘束項目を、改めてみんなで確認できるよう、張り紙を作る。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関引き戸に鐘を付け、職員は音で確認している。 ・今年の3月に利用者さんが一人で夜玄関から外に出られ、遠くまで歩いて行かれ、大捜索をしたことがあり、その余波で、玄関は事務所に人が居ないときなど、目が届かない時は鍵をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・玄関や庭など、自由に出入りして頂き、そつと様子確認をしている。外に出られる時は、同行している。 ・夜間は2時間おきの見回りにて安否を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・石鹸、うがい薬をポンプ式にし安全に配慮しつつ自由に使えるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ひやりはつとを書き利用して事故・対応の共有をし、予防に努めている。 ・誤薬を防ぐ為3人の目でチェック、何かあれば管理者へを徹底している。		

グループホーム愛和(Aユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・2年に1回救急救命の訓練を受けている。 ・ホームでも内部研修で行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・月に1回避難訓練を行っている。地震についての内部研修を行った後、有事時の防災用品の備蓄もした。 ・運営推進会議で地域との協力についても話し合っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・転倒、病気などリスクと現状をご家族に説明し、話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・普段と変わることや状態変化時には、記録の特記事項にあげ、口頭でも伝えと共に、申し送りでも報告、申し送りノートにも書き、情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の内容が分かるようファイルをユニットに置いている。 又、薬が変わったら申し送りノートにも書き、副作用についても注意点を職員に伝達している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・毎朝、フルーツヨーグルトを作り提供。野菜が摂取しやすい様、咀嚼・嚥下の悪い方にはミキサーやきざみにしている。 便秘時にはアロエを摂取して頂き、でない場合は下剤を服用して頂いている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、口腔ケアを励行している。利用者さんの状態に応じて援助している。		

グループホーム愛和(Aユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日に1500Kcalとおおよその設定をしている。摂取量について必要な方は主治医に相談し、量を決めている。栄養バランスについては栄養士資格保持の職員に相談し助言を貰っている。水分に関して摂取表を作り、把握に努めている。お茶ゼリーや野菜ジュース、他、目先を変えながら、水分摂取に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・外部から招き感染症の研修を行ったり、他、内部研修でも行い周知している。マニュアルを作り感染の予防に努めている。 ・外出後や朝夕にうがい、手洗いを励行している。又、来客や面会の方にも協力いただくよう、玄関に表示している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・除菌、ハイターを徹底している。アルコール消毒も行っている。 ・2ユニット共有の冷蔵庫に保管、新鮮なうちに使い切れるよう工夫している。	○	・台所用のエプロンを分けていない為、今後検討していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関周りに花を植えたり、ベンチを置いたりし、気軽にくつろげるようにしている。道路側のフェンスには四季の花々が楽しめるよう工夫している。フェンスには掲示板を設置しあいわだよりなどを貼っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・門扉が無く、バリアフリーで玄関は入りやすい。鉄骨づくりの新築だが中に入ると和室も多く、落ち着いている。玄関には和風の昔ながらの家具を置いている。梅干の壺もご利用者の方にはホッとされるひとつ。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、リビングや和室に椅子やソファを設置し休憩場所を作っており、気の合った仲間での居場所が決まっている。ウッドデッキや畑にも自由に出入りしている。		

グループホーム愛和(Aユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族さんには出来るだけ馴染みの物を持ってきていただくようお願いしている。若い頃に編んだ手編みのセーターを今も愛用されておられる方がある。テーブルや椅子を必要に応じて置いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏場は早朝より窓を開けている。冬は外気温が上がった頃を見計らい、利用者さんがリビングにおられる間に窓を開け換気を行っている。寒がりの利用者さんが多く、室温は少し高めである。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレ・浴室など必要な所には手すりなど増設している。ADL低下に伴い、浴槽をまたげなくなった方にリフトを設置した。 ・歩行困難な方は、つかまり歩けるよう家具や椅子などでも工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・湯のれんや便所の札をかけている。居室入り口には名札を掛け分かるようにしている。入所4年目になり、利用者さんは分かってくださっており、混乱は無い。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキでの日光浴、畑での収穫、花の観賞、庭掃除など天気の良い日には楽しんでおられる。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ひとつの家族として、和やかに暮らせるよう、お互いを認め合える生活を目指している。